

## 29年度 第1回 経済成長のけん引分科会 議事録

(1) 日 時：平成29年11月21日（火）15：30～16：55

(2) 場 所：久留米シティプラザ 5階 大会議室1

(3) 出席者：ビジョン懇談会委員9名、代理1名（8名欠席）

世利座長、椎山副座長

事務局5名、各ワーキンググループ職員

※ワーキンググループは以下WGと表記

(4) 次第及び議事：

〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

### 1. 開会

### 2. 議事

#### (1) 平成29年度連携事業進捗状況及び平成30年度事業計画・予算について

##### 〔平成29年度連携事業進捗状況及び平成30年度事業計画・予算について説明〕

- アンテナショップ事業について、アンテナショップのターゲット、情報発信などどのように活用していくのか。地元の事業者などへの還元や他のアンテナショップとの関わりを今後どのようにしていくのか。
- アンテナショップの来場者は、当初は在京の久留米地域にゆかりのある方などが多かったが、首都圏の方にもPR出来るよう、今後、近隣のアンテナショップとの連携や商品の入れ替えなど運営事業者とも協議しながらやっていきたい。地元製品のPRの場としても活用してもらい、販路拡大につなげてもらいたいと考えている。あわせて、各市町のPRの場としても活用していきたい。
- アンテナショップでのイベント開催の状況やその中での成功事例などの情報を各市町、事業所などに提供いただき、圏域全体の活性化につなげてもらいたい。また、圏域で知恵を出し合いアンテナショップを盛り上げていくことも重要であると思う。
- 各市町の企画担当課長とは月1回の会議などを行っている。地元の商工会などを通じてイベントスペースの活用の周知を行い、圏域事業者にアンテナショップの活用促進を行っているところであり、アンテナショップの活用を促進していきたい。
- アンテナショップの運営について、運営事業者との協議などは行っているのか。
- 運営事業者からは、毎月、事業計画と実績報告を受けている。また、効果的な情報発信ができるよう協議も行なっている。物販については、運営事業者との民民の契約の中で進めてもらっている。
- 商品をアンテナショップに出したい場合は、どのような手続きが必要か。農産物の取扱いは、どのようなになっているか。
- 商品を出展したい場合は、まず、エントリーシートを所在の市町へ提出いただき、圏域にゆかりがあるかなどを審査し、クリアした商品は、運営事業者との契約交渉となる。農産物については、賞味期限が短いため運営事業者が買取りを行っている。
- 圏域農産物の販売力強化事業について、マルシェのような市場を開催し、消費者に知ってもらうことも重要ではないか。さらに定期的に継続して行うことで、市民に定着しやすいと思う。
- 農商工連携見本市をバイヤーと圏域の事業者のマッチングの場面として実施しており、昨年度は、出展した事業者を中心に市民向けのイベントとして「マルシェ」も行った。また、圏域のJAと連携して、大型量販店などにおいて農産物のPRを行っている。

- 圏域で、農産物の統一ブランド化に取り組んだり、食品加工業者も多いので6次産業化による商品開発などに取り組むことも面白いと思う。
- 久留米市では、「キラリくるめ」や「くるっば」を使い共販の資材としてPRに使ってきた。4市2町には5つのJAがあり、それぞれに販売促進に取り組まれているため難しいが、圏域農産物のブランド化という視点も意識しながら取り組んでいきたい。広域における6次産業化の支援についても、出来ることから取り組んでいきたい。
- 創業支援事業で、よろず相談で終わっているように感じるが、出口の目的を聞かせてもらいたい。また、相談者がどのように創業されているのか教えてほしい。
- 創業支援の目的は、創業の促進を図り、経済の活性化、最終的には雇用の創出を目指している。相談員1名を配置しているが、セミナーの開催や課題解決に向けた研究機関、支援機関などへの繋ぎに留まっている。体制の拡充を検討し、創業後の安定的な事業運営の支援を行っていきたい。現時点では、創業後のフォローまでに至っていない。相談者のその後の状況を掴みきれてはいないが、施設内のインキュベートルーム3室、久留米ビジネスプラザ1室に入居し新規創業をしているところはある。
- 圏域からの参加者が、1名や0名といった事業があるので、各市町との更なる連携が必要ではないか。
- 圏域の皆様を活用していただけるよう、創業支援ネットワークなどを通じて広報していきたい。
- 観光分野では、魅力ある観光商品づくり事業以外のMICEや観光サイクル事業などで各市町との連携が見えてこない。
- まち旅博覧会では、各市町より2プログラム、計10プログラムを実施している。他にも、観光サイクル事業ではうきは市と連携し、推進している。今回、広域観光キャンペーンを進めたいと考えており、アンテナショップを活用し、物産なども絡めて広域的な観光PRを行うことを考えている。
- 首都圏以外のこの圏域でも、広域観光キャンペーンのような取り組みが出来れば良いと思う。
- 今後、ワーキンググループの中でも話をしていきたい。
- アンテナショップを活用した広域的な観光キャンペーンは、面白い取り組みだと思う。福岡県でも今年度から自転車の活用を推進している。全国的にも推進されており、取り組みに期待している。
- 観光サイクル事業は、耳納北麓事業のひとつとしてうきは市と連携しているが、久留米市観光・MICE戦略プランにもあるので、出来ることを検討したい。
- ラグビーワールドカップについては、福岡、熊本、大分での試合が決定し、その中間地点となるこの圏域への人の流れが期待されるが、何か検討できるか。
- 久留米市では、ラグビーワールドカップのキャンプ地候補にも手を挙げている。まずは、キャンプ地に選ばれることを目指していく。そして、地の利を生かし、選手、観戦客、マスコミなどの誘客に向けて取り組みたい。
- インバウンド事業について、福岡に来る外国人観光客は、個人の韓国人観光客が多いようである。韓国人観光客誘致に向けて、PR活動などをされているか。
- 久留米市としては韓国人観光客に向けては、特にオルレをPRしており、他にもスイーツやフルーツをPRしている。他の国では、台湾からの観光客も多く、フルーツやラーメン、日本酒などを、タイや香港はフルーツをPRしている。広域連携の4市2町で何が出来るかなどを検討したい。
- この圏域らしい珍しい商品を期間限定でも取り扱ってみるのも面白いと思う。アンテナショップに行けば、おいしいものがあるというふうになるといいと思う。
- リーサスの分析から、雇用創出などの期待する効果が得られているのか。

●九州経済調査会から講師を招き、4市2町の担当課職員とともに、リーサスの勉強会を行い、基盤産業の重要性について学んだ。久留米市には、ニッチトップ企業も多く存在しているので、これらを伸ばす取り組みを重ねていくことで、地元雇用にもつなげていきたい。

○民間との連携の中で、地域の活性化につながることに期待したい。

○シティプラザの活用をはじめ、文化・芸術分野から経済へ波及するような取り組みが検討されることに期待したい。

## **(2) その他**

### **〔次回、全体会の案内〕**

○これで本日の懇談会は終了する。